

第7回鳥取・岡山両県知事会議 議事録

- 日時：平成27年1月13日（火）13：30～15：00
- 場所：とっとり賀露かっこ館（鳥取市賀露町西三丁目27-2）
- 出席者：岡山県 伊原木岡山県知事、藤井総合政策局長
鳥取県 平井鳥取県知事、岡崎鳥取県未来づくり推進局長 他
- 発言：

1 開会

【岡崎局長】 只今から第7回鳥取岡山両県知事会議を開催いたします。私は本日の進行を務めます鳥取県未来づくり推進局長の岡崎と申します。よろしく申し上げます。それでは、開会にあたりまして、開催県であります鳥取県より平井知事から挨拶を申し上げます。

2 両県知事挨拶

【平井知事】 皆様こんにちは。本日は伊原木知事、また藤井様を初め、岡山県の皆様にお越しをいただきまして、ここ鳥取市賀露でこの会議を開催することが叶いました。日頃本当に伊原木知事就任以降、大変に鳥取県との連携関係を深めていただいておりますことに、心から感謝を申し上げたいと思います。今もこちらの賀露かっこ館をご覧くださいまして、水槽の方を覗いていただきましたが、普段ですとピタリとして動かない我が松葉ガニも、今日は妙に活気づいて運動会のように駆け回っています。カニも伊原木知事に気を遣っているようでございまして、ぜひ、これからも鳥取岡山両県の結びつきを深めていただければありがたいと思います。鳥取県は、岡山のちょうど県の北側に位置しておりますが、今までは山陰と山陽は中国山地で強く切り裂かれたようなそういうイメージをお互いの県が持っていたかと思えます。しかし、今では高速道路も繋がってきて、商圈としても一体性のあるものになってきております。新しい時代の岡山・鳥取両県の間関係を、ぜひとも目指してまいりたいと思います。

そういう中でちょうど今話題になってきているのが地方創生でございます。この年は地方創生元年と言われるわけでありまして。すなわち、それぞれの地域が魅力を持った地域づくりを行っていく、それで人口減少にストップをかけていく、それを我々共同の課題として追及していかなければなりません。幸い、今岡山鳥取両県では東京は新橋に共同の戦略拠点を開設しました。ここには産業振興に関わるサテライトオフィス、また、移住定住や観光を支える案内所、さらには、物産の販売所、これらが1つの箱の中に入っているわけでございます。こういう結節点がある両県が地方創生の中でも連帯をして、それぞれの戦略を発展させていく、これが可能になってきたのではないかと考えております。ぜひ、様々な意味で今日の会議を通じて、課題を提起していただき、解決策を共に考え、これか

らの地方創生を岡山鳥取両県でリードしていくようになればありがたいと考えております。

こうした両県がこれから追求していく地方創生ですが、国を変えるぐらいの知恵がなければなりません。ここ賀露は鳥取県の中で最も地元の人が岡山に縁を感じている地域でございます。それと申しますのも、この港の沖合に浮かぶ鳥ヶ島という島があります。これは754年に吉備真備が遣唐使船で帰ってくる時に漂着をしたという伝説のあるところでもあります。もちろん、昔話でありますので、いろんな説があるわけではありますが、当地ではそうした吉備真備の伝来の地というふうに伝わっておりまして、海底からは当時沈めたと思われる文字が出て来るという話もあります。吉備真備が飛び上がって降り立った島であるから、鳥ヶ島というように呼び習わせるようになったといわれています。今でも春に、ホーエンヤの祭がございます。その時には、鳥ヶ島に行き吉備真備をお迎えをするという神事を、今でも2年に1度行っている、そういう縁の深いところでもあります。吉備真備が当地に囲碁を伝えたと伝えられています。従いまして、ここでは毎年吉備真備杯という囲碁大会も賀露神社で行われております。そういうわけで賀露神社の御神体には、吉備真備がいらっしゃるわけございまして、ここに古来より眠る吉備真備の魂があると思います。今日は、現代の吉備真備、岡山の知恵者である伊原木知事をこちらにお迎えをさせていただきました。そういうわけで、今日はぜひ、伊原木知事から素晴らしいご提案などもいただき両県の県政発展の礎になればと期待をしております。どうも、ありがとうございました。

【岡崎局長】 続きまして、伊原木岡山県知事様からご挨拶をいただきます。

【伊原木知事】 皆さんこんにちは、岡山県知事の伊原木でございます。いつも平井知事の後に挨拶をするというのは非常に大変な事でございますけれども、幸い、岡山の開催ではないので、岡山での報道は控えめになるだろうということで、そういうプレッシャーもあまり感じずにご挨拶をさせていただきます。本日は両県知事会議ということで大変すばらしいご配慮をいただきまして、本当にありがとうございます。お食事、見学コースが大変すばらしかったものですから、つつい私、それぞれ時間をとってしまいまして、スタートが少し遅れてしまいました。どうも申し訳ございませんでした。

平井知事におかれましては先週の全国知事会議において、全国知事会の副会長に選任されました。平井知事の御経歴、能力からすれば当然のことであろうと思いますが、これからもぜひ知事会を引っばっていただければと思います。

また鳥取県は、「鳥を取る」だけでは飽き足らず、この度、「蟹取県」に改名をされたということを伺っております。これまで鳥取県、平井知事が食欲に、先程申し上げましたように全国知事会の副会長のポジションを取りに行くとか、もしくは私を初めとして、若手の知事の尊敬はもう、存分に勝ち取られているわけでございますけれども、すなば珈琲等々で県外ではウケも取る。いろいろと取り込んでいく中で、「蟹まで取る」ということでございますので、岡山県とすれば、とりあえず笠岡のカブトガニはとらないでおいいただきたいと、天然記念物でございますので、それ以外のものはいろいろ我々共同で売り上げも

取って行こうということにしております。私が岡山県知事に就任してから2年経つわけですけれども、本当に色々なことで、県のレベルでもこれだけのことが出来るんだと、一緒に固まって政策のアピールが出来るんだ、もしくは国を動かすことが出来るんだということを大変勉強させていただいております。このアンテナショップをご一緒にオープンさせていただくことで、より勉強させていただく機会が増えたことに関しては本当にありがたく思っているところであります。ぜひ、タッグを組んで、このそれぞれの地域を良くしていく、国を動かしていくことで、ちょっと大きいですけど、日本全体をまだまだよく出来るのではないかと考えております。今回も、いろいろなテーマについて意見交換をさせていただくことになっております。どうぞ、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

【岡崎局長】 ありがとうございます。それではお手元の次第に沿って議論をしていきたいと思っております。大体時間は14時45分までの予定で進行をしたいと思っております。進行につきましては、平井知事よろしく願いいたします。

3 意見交換

(1) 地方創生・地域活性化（地方創生に係る取組 ～移住定住の促進～）

【平井知事】 それでは限られた時間ではありますけれども、これから両県の共通の課題をおさらいをして、提言をしてまいりたいと思っております。今日は伊原木知事がお見えになるということで、当館は休館とさせていただきます、貸切でございます。なんてことはなく、毎週火曜日は休館でございますので、そういうわけで、今日はたまたま休館日なものですから、ここを全館貸切状態で使わせていただいておりますので、心置きなくお話をいただければと思います。まず地方創生・地域活性化につきまして、移住定住について岡山県は全国をリードする県として古くからやっておられます。この点につきまして、岡山県からまずご提案があるということをお願いいたします。

【伊原木知事】 地方創生に係る取り組み、また移住定住の促進について私の方からお話をさせていただきます。実はここについてはものすごく気合いが入っております、ちょっと長めになります。他はさくさくいきますのでご了承ください。

【平井知事】 ここが一番大事なところ。

【伊原木知事】 そうです。地方創生につきましては先般、国の総合戦略が示されたところでありますけれども、地方創生を実現するためには、当然、東京一極集中を是正するとともに、地方がそれぞれの特性を活かして創意工夫を凝らし、魅力ある地域づくりを進め

ることにより、地域の多様性が国全体の成長につながる地域主導型の社会構造に転換することが重要であると考えております。当然だと思えます。こうしたことから岡山県では国の総合戦略の策定を受け、地方創生に関する国の政策に機動的に対応し、地方創生に向けた施策を県を挙げて、迅速かつ的確に推進していくため、私をトップとするおかやま創生総合戦略推進本部を明日立ち上げることにいたしておりまして、今後本県の強みを活かした様々な施策を盛り込んだ総合戦略を策定し、人口減少問題の克服を初めとする地方創生にしっかりと取り組んでいくこととしております。国においては、こうした地方の取り組みを後押しする実効性ある施策を推進すべきであり、加えて、地方への一層の事務権限や税財源の移譲などの地方分権改革の推進はもとより、東京一極集中の是正に向けた抜本的な改革などに取り組んでいただきたいと考えております。とりわけ、地方分権改革の推進は国の総合戦略にも地方創生において極めて重要なテーマであると位置づけられているわけですが、地方が強く求めている、私のこの2年間のテーマでもあります農地転用許可権限については年度内に検討し、その結果に基づいて必要な措置を講ずると、なにかちょっと少し先延ばしされるんじゃないかなというようなトーンになっております。

この農地転用許可権限の市町村への移譲については、先般開催された政府主催の全国都道府県知事会議において、その実現を地方創生担当大臣に対し、直接訴えさせていただいたところであり、国においてはぜひとも実現していただきたいと考えております。新たに、全国知事会の地方分権推進特別委員会委員長に就任をされました平井知事のもと、本県としては地方の声が反映された実効ある施策が展開され、真の地方創生が実現するよう、国に対して働きかけていく必要があると考えております。

この後は、移住定住の促進についてもちょっとお話をさせていただきまして、近年、関西圏に加えまして、首都圏からの移住先として、岡山県、大変人気が上がっておりまして、大変うれしいわけなのですが、東京大阪において、県独自の総合的な相談会の開催ですとか、交流・定住ポータルサイト「おかやま晴れの国ぐらし」、フェイスブック「おかやま晴れの国ぐらし」などを通じて、晴れの国おかやまでの暮らしの魅力を積極的にPRしたり、空き家流通情報システムの運用やお試し住宅の整備の支援など、地域一体となった受け入れ態勢の拡大普及を図ることにより、本県への移住を強力に推進しているところでございます。こうした状況の中、このアンテナショップにおいて、鳥取県さんと連携をして、先輩移住者のパネル展を実施したところでありまして、先輩移住者のお姿ですとか、この両県の状況を写真パネルで紹介をし、移住へのきっかけ作りの場を提供いたしました。また、別の共同の相談会の計画もあると聞いております。ぜひ、一緒にできればありがたいと思っております。大変気合を入れて長々としゃべりましたが、ぜひともよろしく願いいたします。

【平井知事】 はい、ありがとうございます。今、伊原木知事からもお話いただきましたけれども、これから我々で地方創生、それは地方分権も含めて取り組まなければいけないと思えますし、移住定住では、岡山が全国でも引っぱっている団体であります。私ども

鳥取県もそれとタッグを組んでやっていきたいと思っておりますので、ぜひ、一つの連携体として取り組ませていただければと思います。この度、予算案が徐々に明らかになって来ました。それによりますと、地方創生関連では4,200億円の交付金の話がまず決まりました。さらに地方交付税の中でも、1兆円レベルで地方創生枠というものをつくるということになりました。国もようやくと本気で、こうした伊原木知事がいまおっしゃったことに取り組み始めたのだと思います。

農地の問題は、これはいくつかの段階があると思っています。例えば、今言う農地転用の話、これは市町村と県とそれぞれ地方団体がありますが、どういうレベルに、どういふふうに権限を委譲すべきかということ、地方団体としても強力に提言していかなければならないと思います。それと併せて、中山間地直接支払制度が5年間固定されてしまっていて、一度この協定を結んでお金をもらいますと、5年間作り続けなければいけないということになっています。その間は、農地転用の許可権限を仮にかいくぐったとしても、お金を返すということによって事実上進まないということがあるなど、いろんなレベルでこういう農地の有効活用については規制がかかっていると思います。それをできるところからほぐしながら外していくのが戦略的に重要だと考えております。

実はこの週末も石破大臣とたまたま会合で一緒になりまして、この辺のお話も申し上げました。石破さんからは、「正直申し上げて、市町村とか県の力量の差があって、一律に権限、農地転用について権限をどうだということはすぐには難しいかもしれない」というお話がありましたけれども、片方で、中山間地直接支払制度について、個々具体的に緩和をしていく、それについては前向きに考えておられる様子も伝わってきました。多分、明日、分権改革有識者会議が開かれますので、一部そうした内容の方向性が明らかになってくると思いますが、ぜひ、タッグを組んで、伊原木知事、ご就任当時からおっしゃっている農地の有効活用、それに向けた国の方の規制緩和、分権を勝ち取っていきたいと思います。

また、こうした地方創生について、あるいは今の移住定住もそうありますが、先程、そうした両県の先輩の話聞くということがありました。アンテナショップについては、後ほど議題としてまた出てきますけれども、ぜひ、移住相談会やセミナーあるいは地域暮らしの魅力あるツアー展開、こういうことを両県合同でやれないかと思っております。

それぞれの地域の良さがありますが、山陰と山陽のを組み合わせただけで、都会の人から見て、一つの有機的なまとまりを見ることが出来ると思います。それで、ノウハウとしても、田舎暮らしの本など様々なメディアを通じて岡山と鳥取、あるいは隣の島根なんかもそうですが、今注目を集めている地域でありますので、我々がこうタッグを組んでいくことで、こういう地方創生の移住のテーマについて、有効に戦っていけるのではないかと思います。また、実はその県境を挟んだところに共通のテーマがあります。後ほどまた里山資本主義の話なども出てきますけれども、そうしたことも含めて、両県を通じた事業化も可能かもしれません。明日、地方創生の対策本部を立ち上げられるということですが、私ども鳥取県もそういう機構を作っています。ぜひ、情報共有を図って両県共同でやれることなども、例えば移住相談会を始めとしてあると思っておりますし、県境を跨

いだところでの共通課題もあろうかと思えます。ぜひ、地域を応援していける有効な体制作り、また伊原木知事の方でもご協力いただければ、本当にありがたいと思えますのでよろしくお願い申し上げます。

(2) 地方創生・地域活性化（里山活性化の推進）

【平井知事】 それでは、今ちょっと触れました里山の活性化につきまして、さらに議論を深めていきたいと思えます。これについては先般、日南町という新見との県境のところ、里山資本主義のフォーラムを開催させていただいた時、伊原木知事もお忙しい中をぬってお越しをいただきました。高木美保さんも加わっていただきました。その際にもいろいろと議論をさせていただきましたが、今、県境のあたりにはいろんな可能性が溢れています。真庭で木質バイオマスの発電があるとか、それから、クロス・ラミネーティッド・ティンバーCLTの研究開発、また実用化ということもあれば、またこういうアンテナショップ等も共通化してきましたけれども、お互いのいろんな産品があるじゃないかと。考えてみますと、里山資本主義が目指している水と食料とエネルギーを里山が制していると、そういう古くの時代の伝統が現代に蘇るわけでごさいます、これは両県の共通の思いになってくるだろうと思えます。ですから、ぜひ、この里山資本主義の考え方を活かした里山活性化モデルにつきまして、それぞれの取り組みの横展開を図ったり、有機的につなげていったり、それこそ移住だとか、教育の問題だとかもいろいろあると思えますが、お互いの県境をむしろ取っ払うような形で里山活性化に向かっていければと思えます。ぜひいろいろなお互いの実践活動などを共有したり、共同でやれる事業、例えば、このあたりで採れるチップ材も含めたC級材といったようなものは結構岡山にも流れるわけですね。そういう循環の中に共同して我々の地域は立脚していますので、その辺にもご配慮いただければと思えます。

【伊原木知事】 全くその通りでありまして、以前の国土の均衡ある発展ということで、すべての地域を東京か大阪みたいに、こうコンクリート固めてやるぞという時には、中山間地域っていうのはなかなかそれがしづらい地域ということだったわけですが、そもそも我々、森に入ったりするとホッとするわけですし、鳥が鳴いていたり、小川のせせらぎというのは、これはもう住む場所とすればむしろ好ましいわけであって、これまではその仕事の関係ですとかいろんなことでなかなかその素晴らしい環境を活かしきれていなかったわけですが、今ようやくそういうところに日が当たってきた、もしくはこれまで使えていなかった資源を使う可能性が出てきたということですから、ぜひ我々、いろんな工夫もしくはいろんな可能性の芽を育てていくことで、都会に住んでいる人にとってもいいし、そもそもその地域にとっては非常にありがたい工夫をしていきたいですし、ぜひ、都会でちょっと疲れてしまった人にはお越しいただいて、地域の元気、引っ越してきた人の元気につなげていくような取り組みを両県で進めていきたいと思えます。

そもそも岡山県は新橋のアンテナショップで、鳥取県とショーウインドーを共有している仲ですから、わざわざ我々がアンテナショップで岡山県だけの何か募集しているのももったいないですので、ぜひいろんなことで一緒にできればと思います。よろしく願います。

【平井知事】 ありがとうございます。今、伊原木知事もおっしゃったように、現代人をホッとさせる空間が里山にあります。それが、両県を跨ぐ中国山地を中心として広範囲に広がっているわけでありまして、ここを資源に変えていければ、地域づくりもかなり前向きに進みやすくなってくると思います。ようやくそういう時代が見えてきたと思いますので、ぜひご指導いただければありがたいなと思います。そういう魅力づくりの一つの大きな柱となるのは、人を呼び込んで交流人口を増やすこと、観光にあるというふうに思います。この観光で伊原木知事の方からも広域的なアプローチをご提案いただければと思います。

(3) 広域観光の推進（「とっとり・おかやま新橋館」での連携）

【伊原木知事】 アンテナショップのお話を、先にさせていただいてから観光の方にいきたいと思います。ご案内のとおり、去年の9月28日にオープンしました、「とっとり・おかやま新橋館」には、私が思っていたよりもペース良くお客様に入らせていただいております。本当にありがたく思っています。だいたい2つの県が協力してそれぞれ関係者がいて、議会があつてということになると、なかなか上手くまとまらないわけですが、本当に皆さまがたのご協力でスムーズに運営をして、いろんなものが紹介され売れている、地元の方でもそれぞれ出店した人から、「すごい刺激になっている」「いろんなことを教えてもらっている」「評判がよく、問い合わせも来るようになった」などうれしい声をずいぶん聞いております。本当にこれから両県で工夫をしながらもっとこのメリットを取っていききたい、両県でイベントに取り組めるものはどんどんしていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願います。

【平井知事】 このアンテナショップについては、本当に伊原木知事の広い心で、両県で一緒にやっへ行こうということで決断をしていただきました。鳥取県もようやくスターバックスの隣から解放されまして、自由な立場で、「とっとり・おかやま新橋館」でおもてなしをできるようになったと思います。お蔭さまで、3ヶ月で15万人ぐらいのペースでお客様に来ていただいております。伊原木知事がおっしゃったように天満屋さんのご経験を活かしても、予想以上の集客があるということでして、ここは自信を持っているのかなと思います。年間目標は50万人でありますから、単純計算では結構良いペースということになると思います。ただ、もっと活用できると思います。売り逃しがまだいっぱいあるのではないかと、それぞれの県の特産品がまだショップに十分並べきれていないところがあつ

たり、お客様のニーズとぴったり合っていないところもあるかもしれません。また、サテライトオフィスなどとの有機的な連携も含めて拠点性を活かしていく、そのあたりの課題もあるかもしれません。特に2階のレストランはもっと収益を上げられるように、この辺も改善が必要な部分があるのではないかと考えられます。いずれにいたしましても、まだ始まったばかりでありますので、伊原木知事は商売のご専門でいらっしゃいますから、ぜひ負けない店に仕立て上げていただけますようお願いを申し上げます。

今もイベントのお話がありました。例えば秋の収穫期なんかは、おもてなし感謝祭とか、両県でワアッとこう首都圏のメディアだとかにも露出できるような、そういうなにか、桃の季節やら葡萄の季節、我々で言ったら梨だとか、スイカだとかありますけども、そういう季節感のある時にパアッと存在感のあるイベントをやったらどうかなということの内々に思っています、またお考えをいただければありがたいなと思います。

また、最近ですね、全国的にブームなのは利き酒会のようにありまして、岡山さんもされていらして、人気が凄かったみたいですし、私どももそういうような企画もあるのですが、このあたりも岡山鳥取両県で共同でやるとか、あるいはもっと広げて中国地方一円を引き込むとか、せっかくあれだけのイベントスペースもありますので、なにか名物行事を考えられないかと思っています。そのあたりも含めてご専門でいらっしゃいますので、催事にしても何してもお知恵をぜひいただければと思います。

【伊原木知事】 おっしゃるとおり、ここは地方自治にあまり詳しくない人間にとって、数少ない良く知っている分野ですから、ここが大コケすると、ちょっとどうしようもないと思っただけに大変うれしく思っています。ぜひ、いろんなアイデアを盛り込んで、さらに良くしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

(4) 広域観光の推進 (EV ドライブ観光の促進と EV 普及促進)

【平井知事】 はい、ありがとうございます。それでは観光の本体の方にいきますけれども、EVを活用した観光の促進につきまして、観光誘客につきましてご提案を申し上げたいと思います。これは、先般初めて岡山鳥取両県を跨ぐような電気自動車ラリーを開催をいたしました、本当にこれは評判が良かったと思います。関東だとか九州だとか結構遠くからお見えになられたマニアのかたもいらっしゃいました。それで、走っていただいた感想が非常に我々も自信が持てる部分があって、景観がいいと、岡山鳥取両県を跨いで走るのを楽しんでおられる、そういうターゲットに対してアピール力のあるものだったというのが1つ。それからもう1つは、両県それぞれに、我々もそうなんですけども、電気の充電スタンドを確保してきました。鳥取県でも100件を超えるレベルになっていまして、大分整備が進んできており、それが利用者のかたにも実感していただけたということでありまして、非常に走りやすいゾーンングになっているということでした。

ただ、若干の反省点もあります。例えば、県境の山間のところなどの充電スタンドには、

どうしても行列ができてしまう。お茶でも飲むぐらいは時間がかかるものですから、その分、そこで行列ができてしまうので、そういう行列の解消などができたらいいのではないかと。逆に言えば、「ここは今充電しているので別の所に行きませんか」ということをモバイル端末などでご案内させていただくなど、ソフト面での可能性があるかもしれません。こうやって改善を図りながら両県でこうしたEV観光の需要を引き込んでいくことができるかなと思います。

好評でありましたので、また今年もぜひ、蒜山・大山あたりを中心として、こういう電気自動車ラリーの大会をさせていただければありがたいと考えておりますので、また、一つよろしくお願いを申し上げたいと思います。

また、EVに限らず、今こういうエコなモビリティに対する需要が高まっています。この辺はまだまだ水素にしても走り始めたばかりでありますので、ぜひ情報も共有して未来志向の地域基盤作り、エネルギー対策を構築出来ればと思いますので、ご指導いただければと思います。

【伊原木知事】 この中国横断EVエコドライブグランプリに関しては、鳥取県さんからのご案内で、せっかくこういうお話をいただいたのだからと、我々としてもご一緒させていただいたわけですが、最初思っていた効果は充分出たわけですが、それ以外の効果もあって本当に勉強になりました。先程、平井知事がおっしゃったように、行列ができる場所があったよとか、お茶をそんな五杯も六杯も飲めないよみたいなことで、やっぱりこうあんまり長いとイライラしてしまいますし、また、これは主に岡山県側で多かったそうですが、夜間使いづらいということもありました。私自身、民間の感覚を活かすというふうに言いながら、この充電スポットについては出来るだけたくさんスポットを作ろうということでは頑張りましたが、それぞれの使い勝手がどうなのかなというところについては、正直、思いが至っておらず、実際に皆さんにそれを使ってラリーをしていただくことで、ここは使い勝手が悪かった、こういう問題もある、ということが初めて分かってきた。これはPDCAサイクルを回すということで、非常にいいやり方だと、お手本を教えていただいたようなことでありまして、当然作っただけで終わりではなく、使ってもらって、使いやすい、上手くいってるというところになって、初めて、よしということですから、こういった楽しく皆さんで参加を募る、遠くからも来ていただくことで我々自身のチェックにもなる。素晴らしい取り組みだと思います。これからもいろいろと広げたり工夫したりして続けていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

【平井知事】 ありがとうございます。ぜひ、こういうEV、せっかく三菱自動車さんも立地をされていますので、中国地方の東側のところがメッカになるように協力して取り組んでいきたいと思っております。それで、EVに止まらず、今はこれから海外からのお客様を呼んで来なければいけません。また国内でも中国地方についてはまだまだ認知度が充分でないと言われるところもございます。特に今年で言えば、3月に北陸新幹線が開業するとい

うことは、これは首都圏の視線がかなり北陸側に向いてくることが予想されるわけであり
ます。そういう中で、やはりパワーアップしてお客さん、観光客を呼び込んでくる、そう
いうキャンペーンなり仕掛けを作っていかなければならないと思います。海外のことで言
えば、皆で協力して中国5県で観光キャンペーンに出掛けるということも始めたわけですが、
ぜひともこの方向性を強めていきたいと思います。このことについて伊原木知事はが
ご見識が深く、あちこち駆け回っておられますので、まず、口火を切っていただければ
と思います。

(5) 広域観光の推進（観光客の誘客に係る連携）

【伊原木知事】 観光に関しては、私2年間この仕事をして、非常にポテンシャルが大き
いですし、波及効果が大きく、また、投資効果も高いということを本当に痛感しています。
知事に就任してから、観光関連予算を倍増させていただいたわけですが、本当に楽しい
事業がたくさんあり、倍増してちょっとやり過ぎたと言って減らすよりは、まだまだ増や
すことで、県民の皆さんに、税金をうまく使っているな、何かこう元気の素が出来ている
なというふうに実感していただけるのではないかと考えているところです。

県外から国内のお客様を呼び込むにあたっては岡山とか吉備路ということでも、そこそ
こアピール力はあると思っており、工夫次第だというふうに思っています。来年JRのデ
スティネーションキャンペーンも決まりましたし、今年の夏にはそのプレキャンペーンが
あります。そういったことでいろいろ出来るわけです。ただ、海外ということになります
とどこをどう工夫しようが、岡山というだけで、今観光客が急増している台湾ですとか、
東南アジアからお客様を引っ張ってくることは、なかなか思えないのです。私
自身が海外にプロモーションに行った時、それは予想していたので「岡山」ということ
ではなく、「山陰・山陽」ですとか、いろいろな周りの県と一緒にアピールをさせていただ
いたわけですが、そちらの方が現地の皆さんからして非常に分かりやすい、イメージ
をしやすいということがあります。

当然ながら我々だって、フランス観光局から、イベントを持ちかけられた時に、フラン
スの中でもブルターニュぐらいたったらまだ分かるかもしれませが、ブルターニュの中
の1つの地域と言われると、そのためにわざわざフランスに行くのか？みたいな話になり
ますので、やはりお客様にとってイメージしやすい、響くぐらいの範囲、固まりでアピ
ールをしなければ効果が薄いです。そもそも失礼な話であります。そういう時に近隣
県と一緒にアピールが出来ればこれはもう非常に有効でして、岡山も本当に食べ物のお
いしいところだという自負はあるわけですが、鳥取も、さきほどお昼御飯で、この山
陰の海の幸・山の幸をいただきまして、やはりまた岡山と違ったおいしさがあるなど、
今回も痛感したところです。ぜひ、セットになって海外からの観光客を引っ張って
くる努力、いろんなことで進めていきたいと思っています。よろしくお願
いいたします。

【平井知事】 確かに今の点は、まさにその通りだと思います。やはり特に海外からの誘客がこれから大事になってくると思いますが、それは1つの県ではまず無理だと思います。ただ国は、2020年の東京オリンピックの年には、今1千万人と言っているものを2千万人にしようということですが、経験的にいいますとオリンピックの前にお客さんは急増しますので、1千万人から2千万人というのはそんなに難しいターゲットではなくなってきていると思います。今、海外のお客様は関西までは来ています。私どもも関西の一円ということでは一応ありますが、京都や大坂の注目度が高くて、これはユニバーサルスタジオの効果もあると思いますが、お客さんの流れが今そこまで来ているんです。かつてはディズニーランド中心だったものが、今まずは大阪や神戸あたりまでやってきたと。この、もう一步引き寄せるところを岡山鳥取両県でタッグを組んでいく、あるいは中国地方として合同でやっていくという視点がぜひとも必要だと思います。例えば、旅の形でいいますと、国によっていろいろです。中華人民共和国の方は団体旅行が多いのですが、香港や台湾では結構個人客が増えてきています。こうしたFITと呼ばれる皆さんに対する利便性を、お互いに協力しながら作っていくこと大事だと思います。そういう意味で岡山県というのは、中国地方にとって決定的な位置にありまして、鉄道の利便性からいきますと岡山駅をセンターに置いて、それから四国へ抜ける。もちろん東西に行く、北にも二通りの道筋があって伯備線ルートとそれから因美線ルートこの両方があるわけです。ですから、そういうふうに岡山が1つの中心となって、ぐるぐるとお客さんを回せるように変わればいい。特に鉄道に置いてはそういう面が強まっています。

今、外国人観光客向けに我々の地域で共同して働きかけた1つの結果として、JRさんも山陰岡山パスというのを作って4,000円余りで販売をするということになってきました。また、これに限らずいろんなプレミアムのついたJRの取り組みがあると思います。また、ネクスコ西日本の方も、これも共通の周遊券のようなゾーニングによるチケット販売をされており、こうしたところを上手にPRをしながらお客さんを引き込んでいく必要があると思います。特に海外のプロモーションですね、これはやっぱりこのままではどんどんこう関西で止まったきりになってしまいますので、こちらに引き込めるように共同戦線を、中国地方として、あるいは岡山鳥取両県として展開できないかなと考えております。また、チャーターフライトを組む、あるいは定期便化をやっていくにも両県跨ぐような人口規模感あるいは観光規模感がなければいけません。この辺も共同でやっていくべきだと思います。以前は岡山と鳥取とプログラムチャーターのような形で、これには高松なんかも入りますが、皆で呼び寄せて、出口と入口をそれぞれに分けるような形で、無理のないチャーターフライトを引き込んでツアーを呼び込むということをやった時代もあります。これから地方空港の活用なくして2千万人の受け皿作りになりませんから、だんだん話も進んでくると思いますので、今、岡山鳥取両県の観光の協議会も動き始めていますけども、ぜひ、注目度が高まるようなことをしていけないと思います。

また、瀬戸内海があり、中国山地があり、それから日本海がある。これを上手にこうPRできないかな、そこに岡山の「もんげー」の妖怪ウォッチがいたり、同じ妖怪でも鳥取

には昔ながらの水木しげる妖怪というのもありますが、そういうような魅力を地域の魅力をつなげながら、例えば、ファミリー層をターゲットにする、あるいはちょっとミドル層やシニア層をターゲットとした、それぞれのグルーピング、ゾーニングが図って観光旅行商品が作れないかと思っておりますので、この辺も共同でできればありがたいと思います。

また、実は大山が1300年の節目をもうすぐ迎えようとしています。これは、大山は蒜山三座と、歴史的にも地理的にも非常に密接な関係にあります。いっそ、山物語として、大山蒜山、島根あたりも巻き込んだらいいと思うのですが、そういう1つのテーマを大山1300年に合わせてつくりながら、人を引き込んでいけたらいいのではないかと思います。ぜひ、これから盛り上げていただければと思います。そうした観光についてさらにお話しいただき、またこれと併せてそれをつなぐ高速道路というのが大切になるかと思っておりますので、そのあたりを伊原木知事の方からお話をいただければと思います。

【伊原木知事】 では、観光のことについて一言追加をしてから、高速道路の話をしたと思います。この仕事をしておりますと、時々、観光地の方から、お願いというか、感想を言われることがあって、岡山空港、岡山駅に降り立った人が岡山県を通過して別の県で泊ってしまうのは何か少し寂しいような気がする、といったことを言われます。これは難しいことで、なかなかジリ貧だということになると、縮み思考というか、とりあえず岡山に降り立った人からは全部岡山でとってしまおうという発想が出るのは、これ自体は別に不自然なことではないと思います。ただ、それはそのお客さんにとって今回は、確かに損得で言えば得をしたように見えるかもしれないんですけども、お客さんからすればちょっと試してみたけどこの程度かということで、リピーターになっていただく、感激していただく可能性を減らしていると思います。できるだけ、我々として県境のこっち、向こうとかいうことではなくて、大盤振る舞いして、この地域で一番お勧めのものを提供するという、私がいつも県庁の中でうるさく言っております顧客主義、我々にとってのお客様、観光客の人にとって一番いいツアーを組んで差しあげる、一番この地域、広く取った地域の素晴らしいところ、美味しいところをご提供するという考えに基づけば、県境のこっちか、向こうかというのは、それ自体は関係ないはずであって、これまで中国地方とか、こことかあそこか思ってたんですけど、すごく良かったよということで、またご自身がお越しくださる、また、お友達お知り合いの方がお越しいただけるということになると、これはもうすごくいい意味で広がりが出てきますので、ぜひ、縮み思考に陥るのではなく、我々のいいものを堂々とお客様視点でご紹介するというのを貫いていきたいと思っております。

(6) 高速道路ネットワーク等の整備促進

【伊原木知事】 そのためにもやはり移動がなかなかしづらいということになると、どうしてもご紹介できる地域が限られてくるわけです。この両県を結ぶ広域道路ネットワーク

の整備は、山陰山陽を周遊する広域観光圏の形成ですとか、物流の強化で地域経済の活性化を図るために必要不可欠だと考えております。この地図の中でも青くきちんと塗られているところがある一方で、点々であったり色が変わっていたりということで残念な地域もございます。この中国横断自動車道岡山米子線は、とりあえず繋がってはいますが、暫定2車線ということでありまして、この地域高規格道路北条湯原道路は、この緑色の線についても、もう少し詳しい地図になるところは出来ているけど、ここはまだ作っている最中、ここについてはまだ考え中みたいなことで随分違いがございます。中国横断自動車道姫路鳥取線は、ここの右側の方ですけども、これについても少しずつは出来ているのですが、私も一部開通式に出させていただきますが、まだまだきちんと出来上がっているわけではございません。それぞれのネットワークをきちんとつないでいくことでもっと地域のポテンシャルが活かせると思っております。平井知事は、中国知事会、全国知事会でも要職にあらせられますので、ぜひともそちらの方のアピールをよろしく願います。

【平井知事】 やはり観光について言えば、タイとかこれからもっと掘り起こせば伸びてくる地域があります。その辺はぜひ今度もタイで国際観光展がございますけども、これも今両県で共同でアピールに行こうと言っていますが、そういうことをやりながら、引き込んでいければと思います。

そういう意味で、今、地図にございましたように、まだまだ暫定2車線のところだとか、開通出来てないところがございます。特に我々の方でも、岡山県側でも大事なな思っているのは、美作岡山道路とか、空港津山道路、こうした計画も着々と進捗されているわけがありますが、今度は、勝央のジャンクションから、新年度いよいよ開通してくるということになります。また、尾道道路が繋がってきます。それから、今年度いっぱいくらいで京都縦貫が全通してくると、だんだんと時代が動いて来ていまして、いわば、縦軸にあたる場所をしっかりと繋いでいく、これがその両県の課題なんだろうというふうに思います。

美作岡山道路も出来れば鳥取道から入ってきて、ずっと岡山方面、山陽道方面に抜けるのに便利なところになりまして、岡山と鳥取とのアクセス性が格段に向上してくることになります。ですから、それぞれのお互いの県内のいろんな道路整備も含めてネットワーク作りをしていき、トータルの日本全体の網目の中に両地域を入れていくことが視点として重要だと思います。今回新年度予算では、公共投資は前年度並みということになりましたけれども、そういう中でもミッシングリンクをつないでいく予算の確保を、両県共同して働きかけを強めていければと考えます。特に懸案でありますのは北条湯原道路のところがございますけれども、それぞれの地域内での進捗を図って短時間でアクセス出来ること、これは観光周遊にも役立つことになると思います。特にあの辺は蒜山、湯原温泉等のちょうど県北観光の中心地になりますから、そこからの日本海側に抜けるルートを作っていく、これ両県の共同の作業ではないかなというふうに思います。こういうことでそれぞれの周遊性を活かしていければと思います。また、こうした道路整備がだんだんと進んでくれば

将来的には津山から智頭に抜けるところの黒尾峠を初めとして、もっとアクセスの向上があってもいいのではないかと、そうした提案もなされている地域もあちこちにございまして、そういう一般道の整備もいずれは課題として捉えていくべきではないかと思えます。なんせこう両県一体となった地域性でありますので、道路というインフラを築くことを共同でさせていただければありがたいと思っております。

(7) 危険ドラッグの撲滅

【平井知事】 こうした生活の基盤たるインフラと併せまして安心を作っていくことでは政策目的同じベクトルを作って向いていける可能性は充分あると思えます。特に、昨年一番社会問題化したことの1つは危険ドラッグであっただろうと思えます。この危険ドラッグについては、これは県境を跨いでそのドラッグの購入というものが動きます。またドラッグを使った人が県境を跨いで動きます。実は鳥取県でも重大事故が発生して、これは大原を通して鳥取県の方に兵庫からドラッグを使った人がやってきまして、窃盗事件を起こして車を奪って逃げたということがありました。こういう事案のように県境というのは関係なく起こります。我々鳥取県でも考えあぐねまして、県内でも、県警のいろんな記録を引っ張り出したりしますと、20件以上ドラッグが絡んでいると思われる事案がありました。世間で報道されている部分というのは、本当に事件化したものだけでして、病院に担ぎ込まれたけれども、これはどうみてもこれドラッグだろうというのはまだ水面下であります。それで、そうしたことを考えますと決して他人事ではないと思えます。昨年、中国厚生局とも一緒になりまして、岡山県内も含めてドラッグの販売所は、中国地方は撲滅した形になっていますが、インターネットなども通じて、販売が事実上行われている環境にあります。

鳥取県として、先の9月議会で危険ドラッグ防止条例とでもいうべき、薬物乱用防止条例の改正条例を作りました。それでは今まで化学式で同定しないかぎりでは取締まり対象ともなり得なかったようなところを全部十把一絡げに網をかけてしまう。それで、従来の覚醒剤等と同等以上の健康被害をもたらすものについて、これはもう危険ドラッグだと定義してしまい、その同定が終わってリストアップされてなくても飲んではいけません、打ってはいけません、また販売もしてはいけないし作ってもいけないという網にかけようということとさせていただきます。そうしましたら複数のインターネットサイトで鳥取県には売れませんというようになってきました。こう我々の地域だけの問題ではなくて、ゾーンとしてオフリミットにする、危険ドラッグ立入禁止というところに、岡山鳥取両県のエリアがならないかと思えます。我々の、ドンキホーテ的な条例作りであったわけですが、現実には薬事法の今回の国の改正の中にも鳥取県のようなコンセプトが入っております。従来薬物と同等以上のものは取締まりの対象となり得るような仕組みが導入されています。実は隣の兵庫県も私どもと同じことをされまして、京都府が提案をこの度、されることになっています。ぜひ、岡山県においても、その辺、共同歩調をとっていた

だけかと思えます。また、いずれにせよ、例えばインターネット上でこれは怪しいという物質が出てきましたら、情報共有したり、分析を共有したりするなど、単県では難しくても両県なら対処できるようなそういう仕組みを作っていければと思います。これからの岡山県でも、またぜひ、条例上の検討もしていただければありがたいですし、それと併せて、私どもと共通の基盤によって取締まりを進めていくようなことで、いわばオフリミット化を目指したいと思ひまして、ご提案申し上げます。

【伊原木知事】 危険ドラッグに対して、鳥取県が非常に果敢な対応をされていることに対して、まずもって敬意を表したいと思ひます。自分が気分良くなりたのかよく分かりませんが、周りの人に危害を及ぼすことに対する強い憤り、出来ることを総動員して取締まりまわっていく、排除していくという意気込みにかけては、私47人の知事の中で負けないつもりではありますが、実際の手続き上の問題ですとか、効果の問題については、案を練ってパブリックコメントを募集したところで、もう少しで条例化していくわけですが、その中で鳥取県は他のいくつかの先進的な県の1つとして我々も参考にさせていただいたわけでありまして。かなり踏み込んだ対応をされているということで、ちょっと驚いたわけですが、その結果として、悪い連中から名指しをされて鳥取県には売れませんよということになると、これ以上の勲章はないです。ぜひ、岡山県もその仲間に入れていただきたいと思ひております。

これはシカ・イノシシ対策に似たところがありまして、マンションで、他のところが皆バルサンを炊いているのに、自分のところだけバルサンを炊かなかつたり、ちょっと効きが弱かつたりするとそこが避難所になってしまいますので、我々とすれば他県よりもきついバルサンを炊く意図はあっても、それよりも弱いバルサンを炊く思いはないものですから、ぜひ、いろいろとノウハウやエッセンスを教えていただきたく、とにかく岡山県も一切許さないと思ひておりますので、タッグを組んでよろしくお願ひいたします。

(8) 「あいサポート運動」への共同参画

【平井知事】 危険ドラッグについては、いわば同盟関係を結んで、徹底的な排除、オフリミット化を進めていただけるということをございます。本当にありがとうございます。

併せてこれはご協力いただければということですが、昨年私どもは障がい者をテーマに共生社会を訴える1年といたしました。その中であいサポート運動というのを繰り広げておりまして、障がい者の皆さまの障がいを理解し、共に生きる社会づくりを進めてまいりました。その1つの総括としてあいサポートアートとっとりフェスタという障がい者芸術・文化祭を行い、また手話言語条例、これも制定をさせていただいたことを記念いたしまして、手話パフォーマンス甲子園ということをございただきました。最近も岡山のろうあ連盟のかたに呼ばれまして井原市の方でそうした鳥取県のやり方についてご紹介させていただく機会も作っていただきました。いろんな意味で民間レベルと言ひますか、障が

い者対策としてはいろんな共通化を図ってきていると思います。特に岡山県は、障がい者対策あるいは高齢者なども含めまして地域づくりの観点で先進的なユニバーサルデザインの考え方を入れておられる先進県でいらっしゃると思います。私どももその1分野でありますけれども、障がい者と共に生きる社会づくりということで、今日お手元にございますように、これ、要は研修冊子なんですね、見ていただきますとお分かりいただけようかと思いますが、それぞれの障がい、例えば視覚障がいであればこういうようなことに困っていますよ、こんなような注意点がありますよ、というエチケットのようなものが書かれているところなんです。また、DVDなども作りまして、障がい者との接し方なども研修するようになっております。こういうようなノウハウの共有をしていただいて、こういうあいサポート運動をまた県内でもご紹介いただくということができれば、障がい者も、これも実は県境を跨いで動いていきます。それで、今、駐車場についてはそれぞれのやっている駐車場の、障がい者の駐車場対策を相互乗り入れするようになりました。こういう一般的な障がい者に対するサポートという面でも、あいサポート運動を媒介にして共通化できないかと考えておりまして、この辺もお考えをいただければと思います。

【伊原木知事】 平成24年度の両県知事会議で共同参画提案がありまして以来、岡山県としては鳥取県が作成されたDVDを活用して職員向けの研修会ですとか、UDサポーター担当課の出前講座を実施しているところでございます。先程言及していただきましたけれども、従来から岡山県で福祉のまちづくり関連で、このあいサポート運動と同趣旨の事業を実施しているところでございます。このユニバーサルデザインについては先進県だという思いがございまして、これは障がい者だけでなくろんな人たちに向けて、健常者と障がい者が分かっているのではなく、それぞれお年寄りになるとちょっとこう、階段がきつくなるとか、障がい者というほどでもないけどここはちょっと手助けが必要だとか、グラデーションというか、少しずついろんな状態があるもしくはバリエーションがあるという、できるだけ特別視しないで広く取り込んで皆さんで生きやすい、動きやすい、過ごしやすいようにしようということでやっております。

我々、旭川荘がすごい活躍をしたりですとか、障がい者福祉はかなり先進的に頑張っているという自負があるだけに、ここでドンと急に方向を変えるつもりはないのですが、自分たちが頑張っているという思いがあるだけに、あまり他の県のお話を知らない部分もあったのかもしれないということもありまして、ご提案いただきましたので、このあいサポート運動についても自分自身、自分たちで勉強したりですとか、紹介をしたりということできちんとその運動の仲間に入れていただきたいと思っております。これからもいろいろご指導よろしく願いいたします。

【平井知事】 ありがとうございます。あいサポート運動とUD、ユニバーサルデザインとの協力関係でやっていきたい。それから、そうしたあいサポート運動を岡山県としても受け入れてくださるといふ非常に温かいお言葉がありました。私どももユニバーサルデザ

インのこれまでのUD運動を我々も勉強させていただいておりますが、なお一層その辺も当県の方にもご教示をいただいて、優しい地域が岡山鳥取両県から全国へと広がるように双方で汗をかいていただければと思います。

4 PRタイム

【平井知事】 以上で予定をしていた議題は終了するわけでございますが、せっかくメディアの皆さんもいらっしゃいますので、最後のまとめも兼ねて伊原木知事の方からアピールしたいことがあれば、あるいはこの際話合っておきたいということがあれば、お話をいただければと思います。

【伊原木知事】 最後にPRの時間をいただいたと解釈をいたしております。岡山県は、ちょうど東西南北それぞれお隣の県があるわけですが、アンテナショップのご縁ということもありますし、鳥取県といろんなことで協力をさせていただき、もしくは教えていただくことで本当に少しずつ良くなっていると思っております。本当にうれしく思っております。鳥取の方にちょっとPRをさせていただきたいことが1つありまして、今年の11月8日におかやまマラソンの第1回が開催されることになっています。今本当に都市型マラソンブームでありまして、いろんなマラソンが行われているわけですが、このおかやまマラソンのPRポイントとすれば、日本陸連の公認コースのフルマラソンということになっています。1つは都市型のマラソンは大抵そうですが、岡山の普段だったら走れない場所、走ったら多分車にひかれてしまうであろうという岡山の一番の目抜き通りを走り抜ける、あと岡山城、後樂園が見えるところを走っていく、旭川沿いの非常に眺めのいいところを走っていく、本当に岡山の良さを堪能できるコースです。こんなことは岡山でもこれまでなかったわけですから、岡山県民、岡山市民気合いを入れておもてなしをさせていただこうと張り切っております。

公認コースで比較的フラットなものですから、タイムも出やすいのではということ聞いておりまして、岡山の観光の1つの核、岡山活性化の1つの起爆剤にしたいと思っております。なかなか倍率が高くなるのではないかとされているわけですが、ぜひとも鳥取の方にも果敢にチャレンジをしていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

【平井知事】 ありがとうございます。本当に伊原木知事からもいろいろなご提案をいただき、実り多い会となったと思います。ぜひおかやまマラソン、鳥取県民にもご紹介申し上げたいと思います。例えば、私どもの広報誌もございますのでそういうところでご紹介をさせていただければありがたいと思います。

鳥取県では先程知事がおっしゃいましたとおり、今「蟹取県」と称しておりまして、実は蟹取県知事の名刺を作っております。

【伊原木知事】 先日、いただきました。

【平井知事】 「ウェルカニ」の気分で今日も岡山の皆さんをお迎えをさせていただいております。伊原木知事を始め、岡山県から多くの方々にお越しをいただきましたが、ぜひ岡山から見て違った海の見える鳥取県また大切にしていただければと思います。

今年、いろんなことがありますけども、ここから行きますとこのすぐ隣が、実は空港です。ちょっと分かりにくいのですが、この向こう側には飛行機の発着場がありまして鳥取空港と完全に敷地を接しております。その鳥取空港、このたび3月1日に名探偵コナンの空港に生まれ変わることになりまして、「鳥取砂丘コナン空港」となります。今ネットで日本以外でも中国などでも大騒ぎになっていまして、中国のネットでも、もし鳥取砂丘コナン空港になればそこには毎週殺人事件が起こるんじゃないかとか、黒づくめの男たちがやってくるのではないかとか、好き放題言われているわけですが、そういう騒ぎを起こしております。実は今鳥取の方では、先程、デスティネーションキャンペーンの話もございましたが、私どももコナンのミステリーツアーをやろうと、今、JR側に呼び掛けているところがございます、そんなようないろんな機会に岡山の方にもまたご案内いただければありがたいと思います。

5 閉会

【平井知事】 本当に今日は限られた時間ではありましたが、いいお話もいただきました。鳥取から、あるいは岡山からそれぞれアイデアを持って行動力を持って地方創生をやり遂げていく、それを、アンテナショップを中心とした両県の結節点が両県にはございますので、我々はその、言わば1つのパートナーとしてそういう新しいチャレンジに今年取組んでいければと考えております。

実は鳥取県に国司として赴任していた大伴家持という方の有名な歌に、「春の苑紅にほふ桃の花下照る道に出で立つ乙女」というのがあります。桃の花咲く岡山県、そして鳥取県、これが下照る道と言いますけども、道で結ばれまして我々がこれからの時代をリードしていければというふうに念願しているところです。今日は多くのみなさまのご協力をいただきました。特に伊原木知事には年始お忙しいところお越しをいただきました。大変に感謝を申し上げ、今年1年岡山県にとりましてよい年となることをお祈り申し上げて私の方からのメッセージといたします。本当に今日はありがとうございました。

【伊原木知事】 ありがとうございます。

【岡崎局長】 ありがとうございます。以上をもちまして第7回鳥取岡山両県知事会議を閉会させていただきます。

6 記者会見

【岡崎局長】 引き続きまして、この場で記者の皆さまからのご質問を受けたいと思いません。

【記者】 日本海新聞です。今日、危険ドラッグに関するお話もございました。伊原木知事にまずお伺いしたいのが、今、岡山県ではパブコメを集めている最中というふうにお伺いしました。今後、こういった段取りで条例化を目指されていくのか、ある程度、その見通しが立っておれば教えてください。

それから、平井知事に伺いたいのが、先般は兵庫県とも連携して危険ドラッグの関係で今、いろいろ情報交換も進めておられますけども、今回岡山県さんとかこういう形で連携していくということがまとまりそうな方向が出たわけで、こういう近隣県、特に都市部の方ですね、と連携がとれることについて成果が上がっているということだと思えますが、ご感想をお聞かせください。

【伊原木知事】 今パブコメをとっているところで、ずいぶん骨格は出来上がっているところです。実際パブコメをとった後で、抜本的に改善をすると、ある意味パブコメをとった意味がないということになりますので、ここからそんなに大きな条例自体の修正はなかろうかと思っていますけれども、そのパブコメの内容次第です。実際鳥取県で施行されているものと比べると大胆さにおいて1歩手堅い内容になってしまっています。条例自体を突っ込まれないようにということを引きちんと考えたので、我々の条例の施行をもって違法ドラッグ、危険ドラッグを扱っている業者が岡山県には怖くて売れませんかということになるかどうかは分かりません。なっほほしいと思えますが。それで、その運用においてですか、いろんなことでとにかく鳥取県で出されているようなこの実績を目指していきたいと思っています。あと、我々がこういう条例でパブコメに出した1つの理由とすれば、国の方で動きがあったということで、国のことと重複をすることをあえて自分たちで、今の時点ですることにはなかろうということもありましたが、我々、とにかくそれぞれの時点でできることを全部盛り込むぞと。もし必要であればさらに上乘せをしたり、広げていきたいと思っています。とりあえずこの条例を作って、もし十分でないことがあればさらにやれることは全てやる意気込みでいろいろ教えていただける、ご一緒させていただけることであれば、できる限り近隣の県と一緒にやって当然国とも一緒になって頑張っていきたいと思っています。

【平井知事】 鳥取県として兵庫県とすでに協議体を作りました。それで例えば薬物指定ですね、それぞれの県独自の薬物指定などの参考情報を共有化したりしております。また、いろんな事象が起きますので、そうした事象についての情報共有を図ることにいたして

おります。やはりそれによりまして、やはり1つの県だけでの知見を超えて実効性のある取締りに資する面がずいぶんあると思います。特に鳥取県から言いますと、大都市部、近いところでは岡山市だとか、神戸市だとかそういうのがございますけれども、やはりその大都市には大都市なりの薬物に対する何らかの拠点性が生まれやすいところでありまして、そうしたところと情報共有をしていくということは、それは我々の方でこれはその注意の目を光らせなければならないということが見えてくるわけでありまして、現に兵庫県との関係ではそうした効果が表れてきております。今、京都府とも、同じ種類の条例を作ることになっている京都府ともこのプラットフォームをつなげていくことにいたしております。今日、これからパブリックコメントを経て条例審議を経て岡山県としても取組まれるというふうなお話がありました。今日の合意を踏まえて岡山県さんにもこうしたオフリミット化に何らかのかたちで加わっていただけるという期待しております。

【記者】 山陰中央新報社です。お二方それぞれにご意見を伺えたらと思いますけども、大山と蒜山をセットで宣伝していこうというのは非常に面白いと思います。どのような切り口や仕掛けでまとめて宣伝していくのかアイデアをお持ちだったらお聞かせ願えたらと思います。

【平井知事】 先程お話しした内容と重複しますので少しご紹介させていただければと思いますが、例えばEV電気自動車につきましては、今年行う分については蒜山、大山、これをその主な周遊先としてやってみようということをご紹介いたしました。また、大山1300年祭のアイデアを申し上げましたが、両方つながっている地域でございます。現実にも蒜山のあたりと大山とお客さまが共通しております。そうした方々を捉えて大山1300年のような機会など、ゾーニングによる観光周遊をさらに推進していけるかと思っております。今までで言えば、大山パークウェイというのがございました。これは蒜山から出発をしまして大山を経由をし、最終的には美保の方に、島根県に抜ける、島根半島に抜けていくというコース設定であって、看板をつけたりルート設定をしました。このようなことをこれからは両県で共同でやっていけると思っております。

【伊原木知事】 まさに平井知事がおっしゃられたとおりです。実際のアイデアについては、私が考えたりするよりもぜひそれぞれ皆さんに考えていただいているものが残っていくやり方というのが素晴らしいと思います。本当に鳥取県にとっては大山というのはすごい観光地ですし、岡山県にとっても蒜山というのは非常に人気のある観光地ですけども、それぞれ行ってその先にあるんだけど、もともと帰ることになっているから寄らずに帰ってしまうのはもったいないことです。実はお互いすごく近いですし、お互いのてっぺんに登れるところまで登ったら見えるわけですから、片一方に登るともう片一方にすごく興味がわいて、あっちから見たらどうなるのか、例えば蒜山は本当に素晴らしいところですけど、大山がどんと見えて、でも大山に行くと海まですごい見えるみたいなことまではち

よっとピンと来なかったりするわけです。本当に片一方に行くことでもう片一方の魅力がむしろ高まるみたいなことがあるので、これはまだまだ活かしきれていない、十分掘り下げられていない可能性がここにあると思っています。いろんな面白い観光ルート、観光パッケージができると思っています。期待しています。

【記者】 山陽新聞です。地方創生に係る移住定住の促進について、移住相談会はこれまでそれぞれの県が主催してきたけれども、今後は両県合同で開催することもやって行きましようということでご本日も合意したということですのでよろしいでしょうか。

【伊原木知事】 はい。

【記者】 移住相談会を単県でやるよりも合同でやることのメリットと、それからスケジュール感をお示しく下さい。

【伊原木知事】 単県でやるのも、それはそれで全然悪くないんですけども、先程も申し上げましたように我々にとってのショールームであるアンテナショップを鳥取県と共同でさせていただいているわけですので、せっかくやるのであればご一緒させていただいた方がお互いにとっていいところがあります。新しいお互いのノウハウを教えてもらえることもありますし、いろんなことをやっていって、うまくいくやり方を伸ばしていく、残していくということやっていきたいと思っています。私自身はさっきの大山、蒜山もそうなんですけれども、これだという決め打ちというよりも、いろいろやってみてちょっとずつ変えてみて、うまくいったものを残していく、そういう試行錯誤をやっていくうちにだいたいうまくいく、お客さまからしてもイメージのわく便利なやり方が残っていくんだろうと思っています。いいことは早めに試していきたいと思っています。

【岡崎局長】 1月31日に新橋館で合同の移住相談会を行います。ワークショップや移住セミナーなども考えています。

【平井知事】 1月31日を皮切りにして、これはどちらかの県であっても、鳥取県のことでもやっても岡山にも相談できます。なぜなら同じブースの中に担当者が一緒に住んでいるわけです。ですから、従来とは違った空気がおかげさまで生まれ始めたと思います。例えば、今、県議会議員の間でも盛り上がっている話ですが、両方の県を跨いで、お試しに軽く住んでもらうというツアーをやる、これを鳥取岡山両県の共同で渡り歩いてもらう、こんなことを具体的に新年度企画しようということになってきております。今、政府の方では移住は大きな柱になります。それで移住の総合相談窓口を設置をするということでありましたが、先般全国知事会議が開かれたときに、高市総務大臣の方からご説明がありましたのは、常設ではなく、イベントとして全国を集めながらやることを想定しているということでした。それで、我々のところは常設で移住相談窓口があるわけでありまして。これを

活用していくことで他地域との差別化ができるだろうと思います。それにいくつか節目を年間の中に作って、こういう合同の移住相談会をやったり、さらにそのツアーを企画をしてアンテナショップから呼びかけたり、こんなことで展開をしていきたいと思っております。

【記者】 日経新聞です。両知事にお訊きしたいのですが、今日お話の中で中山間地の話が出まして、この先、各地域が地域創生の総合戦略を立てていくと思いますが、予算のつき方、仕組み上どうしても県境に背を向けるようなかたちで各中山間地はやらなきゃいけないというところで、互いに齟齬があるようなものができてくる可能性というのも考えられると思います。そうした際に調整する仕組みですとか、あるいはその県境を跨いだ中山間地同士が話し合う仕組みですとか、特に先程移住の話も出ましたけども、移住してほしいところがちぐはぐなままではやっぱり魅力ある地域にはならないと思うので、そうしたところも問題意識をお持ちだと思いますが、解決へどういったアイデアをお持ちか、あるいはもう具体策があるのでしたら教えてください。

【平井知事】 先程もご提案を申し上げまして伊原木知事からご賛同がございましたが、地方創生に向けて県境のあたり、情報共有をしていく、戦略を共通化していく、これを考えていきたいと思います。ぜひこれから明日本部を立ち上げられるということでもありますし、我々もそういう組織がございますので、そこでの情報共有化を図って結局上手く、不整合にならないようにする必要がありますだろうと思います。現実には何が起きているかと言いますと、例えば真庭市と倉吉市とではいろんな意味で交流がございます。また、西粟倉村と智頭町でも交流があります。同じような課題を抱えているわけです。木材の活用であるとか、木質バイオマスの材料を集めるとかですね、それから子どもたちのことであってもその自然を活かした森のようちえん、岡山で言えば森の学校、こうしたことがそれぞれにあるわけです。この辺をうまくつなぎ合わせていくことで1つの魅力あるゾーンとして里山が浮かび上がってくる可能性があると思います。今そうした県境を跨いだ交流を盛んにする市町村同士のプラットフォームができ始めましたし、県議会同士も交流が始まりました。我々でも今回の地方創生を1つの切り口として情報の共有化を図って、可能であれば共同のプロジェクトも視野に入るのでないかと期待しております。

【伊原木知事】 本当にそう思っています。県境が意味がないというか、県境であまりびっくりするような差が我々の調整不足だとか、認識不足で起きるようなことは避けると、これはもう全く同じなんですけども、あえて逆の方から議論を進めたいと思います。例えば、県境で齟齬がないようにしようと思ったら、全国一律にしていればいいわけです。もしくはそれぞれ調整をして岡山からすると兵庫と調整、兵庫は大阪と調整ということで横で全部揃えてしまうと、どっちから作ったかは別として一緒のものができるんですけども、子育て同盟でよく議論をさせていただくのが、国もしくは東京で作った案というの

はそれぞれの地域からするととんちんかんなものもいっぱいあります。例えば待機児童の問題というのは、岡山県でも当然問題の一部となっていますが、東京の23区ですとか、横浜市で起きている、これのおかげで大変なんだということよりも、地方では結婚のきっかけづくりとか、他にもそれよりもむしろ大きいんじゃないかという問題も多々ありまして、ですからちょっとずつ違うということが実は独自性の元にもなっています。ですから、両方の問題、必要もないのにそんな問題をつくるのはいけないですし、全部揃えようという気も実はないです。岡山県ならではの問題、それぞれの地域の問題に即した総合計画を作っていきたいと思っています。

【岡崎局長】 はい、ありがとうございました。以上をもちまして記者会見を閉じたいと思います。今日は皆さまがた、ありがとうございました。

【平井知事・伊原木知事】 どうもありがとうございました。

以上